

養 氣 軒

ようきけん



Nagasaki Kawatana Medical Center

vol. 112
2025 Winter

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



健康公開講座の開催について

令和7年10月4日(土)、当院主催による健康公開講座が川棚町公会堂にて開催され、地域住民を中心に41名の方々が参加されました。

今回の講座では、当院の医師・薬剤師・看護師が、「糖尿病」、「認知症」、「脳卒中」、「薬の使用方法」、「ACP」について、最新の健康・医療情報を交えながらわかりやすく解説いたしました。

参加者からは「大変勉強になった」、「今後に活かしたい」など、多くの好意的な感想をいただきました。

講座後の質疑応答では、参加者から活発な質問があり、健康・医療への関心の高さがうかがえました。今後も、地域の皆さまの健康づくりに貢献できるよう、定期的な公開講座の開催を行う予定としております。

(管理課長 張本)





Special edition 【特集】

2025健康フェスタ

テーマ ～ひとりひとりの笑顔が地域の力に～



10月18日(土)、開設80周年を迎えた長崎川棚医療センターは、『～ひとりひとりの笑顔が地域の力に～』をテーマに健康フェスタを開催しました。

あいにくの雨にもかかわらず、川棚町・波佐見町・東彼杵町をはじめ、大村市や佐世保市などから200名を超える皆さまにご来場いただき、会場は笑顔と活気に包まれました。

各ブースでは来場者とスタッフが一緒に楽しみながら、健康づくりのヒントを共有する姿が広がりました。ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。来年もさらに充実した内容で、皆さまをお迎えしたいと考えています。

オープニング

10月18日、「健康フェスタ」が、院長の開会宣言とダイクマンブラザーズさんのバンド演奏で華やかに幕を開けました。オープニングイベントとして行われたバンド演奏では、時代を彩った名曲や、誰もが口ずさめるポップソングも披露され、来場者の皆さまも手拍子で参加するなど、会場は一体感に包まれました。このイベントは、体験や相談を通して、地域の方々の健康づくりと職員との交流を深めることを目的としており、オープニングから多くの方々にご参加いただき、盛況なスタートとなりました。(管理課長 張本 陽一)



煙体験・消防車展示

佐世保市消防局にご協力いただき、火災予防の啓発活動として煙体験テントや消防車両の展示が行われました。来場された皆さまには、住宅用火災警報器の普及啓発や火災予防意識の向上を図ることができ、ご家庭での火災予防の大切さを改めて考える良い機会となりました。ご協力いただいた佐世保市消防局東消防署東彼出張所の皆さま、誠にありがとうございました。(庶務班長 佐藤 輝宗)



バルーンコーナー

ご来場いただいた多くの方に職員特製バルーン作品(花、剣、鉄砲、うさぎなど)をプレゼントさせていただきました。皆様の笑顔を見え、職員一同元気をいただきました。来年もたくさんの方に喜んでいただけるよう、楽しみにお待ちしております!(総合診療内科医師 川原 知瑛子)



作品展示

入院中の患者様方に協力いただき、手芸や押し花、園芸作品を展示しました。作品を通して、地域の方々や院内スタッフとも交流を図る機会となり、参加された患者様も楽しそうに過ごされていました。来年も多くの作品展示が出来るよう患者様と共に引き続き、楽しく制作活動に取り組んでいきたいと思ひます。改めて、沢山の温かい声援をありがとうございました。(主任児童指導員 浦川 萌)



リハビリ体験

前年度に引き続き、車いす体験・自助具体験をしていただきました。70名ほどの方にご参加いただき、『楽しかった』『リハビリの仕事がわかってよかった』など好評でした。普段仕事で関わることがない子供さんと親御さんとのふれあいは、スタッフとしてとても貴重で楽しい時間となりました。来年度について機会があれば、学校などで車いす体験をしたことがある高学年の子たちは自助具づくりなどもできたらと思います。(理学療法士 那須 まどか)



内科診察体験

白衣を着てお医者さんになりきったお子さんに、患者さん役をした保護者の「のど・胸・お腹」の診察体験をしていただきました。迫真の演技をする保護者を笑いながらも真剣に診察することができていたと思います。今回をきっかけに少しでもお医者さんの仕事や医療について興味をもっていただければ幸いです。(脳神経内科医師 林 信孝)



こども薬局

錠剤分包機を使用して、内科医体験で処方されたお薬(お菓子)を1回分ずつ分包(一包化)してもらった体験を行いました。今年もたくさんのお子さんに来ていただき、ありがとうございました。お菓子を小さなトレイに分けていく細かい作業に悪戦苦闘しながらも楽しんでいただけたのではないかと思います。これを機会に少しでも薬剤師の仕事に興味を持ってもらえると嬉しいです。(副薬剤師 横田 千明)



看護師体験

実際に白衣を着て頂き、血圧や血中酸素濃度を測るなどの体験してもらいました。また子供に心電図モニターを装着し、自分の波形を見ることで「ちゃんと動いてる!」「初めて見た!」などの意見も聞かれ、一緒に来られた親御さんも子供が白衣を着て血圧を測る姿を見て感動されている様子でした。体験を通して「こんなに楽しいとは思わなかった」「来年も絶対来ます!」などの声があり、担当者としても楽しい時間を過ごすことができました。(副看護師長 松永 亮太)



手洗い演習

手洗いの大切さを楽しく学べる「手洗い演習」を実施しました。蛍光塗料を手に塗り、洗い残しがないかチェックしました。参加者は驚きと、ともに手洗いポスターを参考に正しい手洗い方法を再確認しました。普段は目に見えないバイ菌が、ライトを照らすと、洗い残しの部分が、白く光るため、爪や指の間に洗い残しが多く残ることを実感して頂き、日頃の手洗いの大切さを感じてもらった機会となりました。(副看護師長 内野 めぐみ)



減塩クイズ

栄養管理室は減塩について5問のクイズにチャレンジしていただきながら生活の中で取り組める工夫をお伝えする内容にしました。小さなお子様からご年配の方まで少しでも減塩について考えるきっかけになったのではないかと思います。参加者の皆様が真剣に考えたり、友人や親子で楽しみながらクイズを解いている様子を見て健康フェスタを開催してよかったと感じました。(栄養管理室長 松下 めぐみ)



救命講習

今年の健康フェスタでは昨年に引き続き、BLS体験をしていただきました。BLSとは一時救命処置のことで、心臓や呼吸が止まってしまった人を助けるための応急手当のことで。子供から大人まで約40名の方にご参加いただきました。「時々を経験しないとね」、「こんなことするんだね」など様々な反応がありました。また、上手くできると嬉しそうな笑顔を見せてくれる子もいて楽しく学ぶことができたと思います。(医療安全管理係長 南 聡美)



手術体験

手術コーナーでは、手術ガウン・キャップ・手袋を着て、腹腔鏡手術鉗子でカメラ映像を見ながらお菓子をとったり、電気メスでの鶏肉の切開体験、色々な手術器材を扱ってみたり、内視鏡カメラを使った胃カメラ検査体験を行いました。普段触ることの出来ない器具の操作を体験出来て子供さんだけでなく大人の方も楽しんでもらえたと思います。鉗子操作が上手な子供さんもいて、医療現場に興味を持ってもらえる機会となれば嬉しいです。(手術室看護師長 松尾 多美子)



骨健康度測定

骨健康度測定では、約100名の方にお越しいただきました。普段、ご自身の骨について考えることは少ないと思います。測定結果が良かった方は今の生活を維持もしくは増進し、良くなかった方は生活を見直して骨を丈夫にするために行動するなど、今回の測定がご自身の身体と向き合っていただくきっかけになりました。今回の測定がご自身の身体と向き合っていただくきっかけになりました。今回の測定がご自身の身体と向き合っていただくきっかけになりました。(診療放射線技師 二神 卓朗)



血管年齢測定

老若男女問わず約100名近くの方にご来場いただきました。本来は18歳以上が対象の機器でしたが、今年はお子様も測定(参考値)しました。結果に一喜一憂していただいて、おひとりおひとりの笑顔が印象的でした。ありがとうございました。(副臨床検査技師長 豊岡 辰明)



《次回の健康フェスタもお楽しみに!!》



Topics 【トピックス】

院内環境美化活動を行いました

経営企画室長 横山 鉄平

患者さんや来院される方々にとって、より快適で心安らぐ環境づくりのため、『院内クリーンアップ大作戦』と題し、環境美化活動を実施しました。

今回は、職員有志による正面玄関前の池の清掃と、長らく何も植えられていなかった花壇への花植え、外来廊下の窓清掃を行いました。池にはかわいらしいカメが暮らしており、清掃後は気持ちよさそうに泳ぐ姿が見られます。外来待合室から見える位置にある花壇には、色とりどりの花々を植え、これまで殺風景だった中庭が、明るく華やかな雰囲気生まれ変わりました。診察を待つ患者さんにとって、少しでも心の安らぎにつながればという思いを込めて行いました。



また、この取り組みは、来院される方々へのおもてなしだけでなく、職員にとっても気持ちよく働ける職場環境づくりの一環でもあります。自然に触れながらの作業は心のリフレッシュにもつながり、職員同士の交流も深まりました。

今後も、地域に愛される病院づくりを目指して、環境整備に取り組んでまいります。

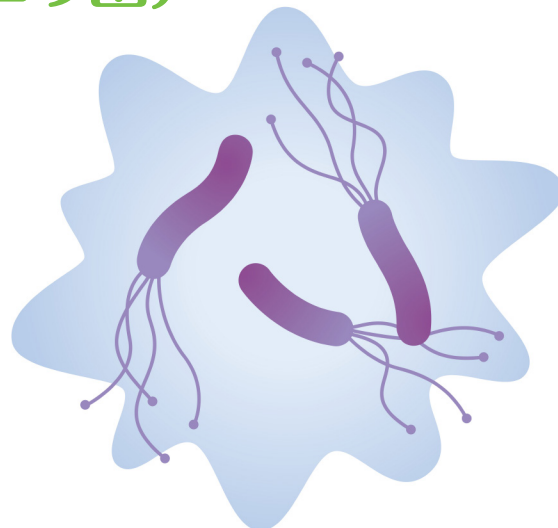
ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)

消化器内科 **松本 章子**

皆様はヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ菌）をご存じでしょうか？本来胃粘膜は胃酸に覆われて細菌が住めませんが、ピロリ菌は胃粘膜に定住できます。幼少期に飲食物を介して感染すると考えられています。日本人の場合、幼少期に水道水のインフラが整っていなかった年齢層での感染率が高く、60歳以上では60%以上の感染率です。反して若年層では感染率が低くなります。

ピロリ菌は胃・十二指腸の潰瘍や炎症、胃癌などの発症に深くかかわっています。早く除菌することで、これらの病気にかかる確率を減らせます。特に日本人の胃癌の約98%はピロリ菌感染が関係しており、除菌で胃癌にかかる確率が約1/3まで減ったと報告されています。胃カメラでピロリ菌感染の所見を確認できた方は、保険診療でピロリ検査、除菌治療を受けることができます。

この度、野中医院 野中直道先生からの寄贈で『Smart



Gene®』を設置しました。胃液内のピロリ菌遺伝子を同定する機器です。除菌で用いる抗菌薬の耐性も確認できるので、より効果の高い除菌治療が可能です。一度当院で胃カメラ検査を受けてはいかがでしょうか？

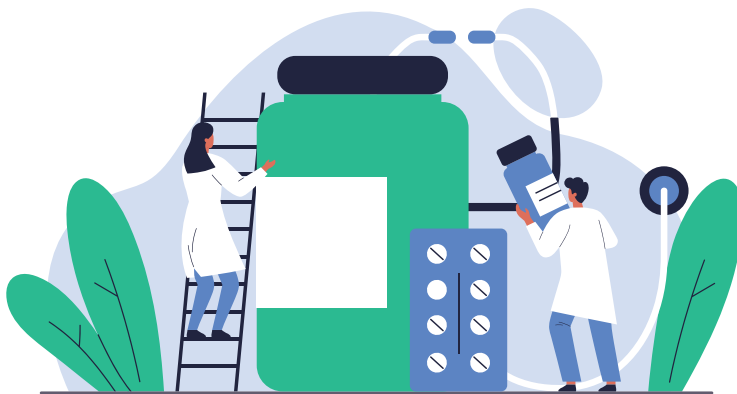
部署紹介(薬剤部)

副薬剤部長 **横田 千明**

薬剤部は現在、薬剤師9名（うち1名育休）、薬剤助手2名が勤務しています。

薬剤部内での内服薬・外用薬・注射薬の調剤、抗がん剤や高カロリー輸液の無菌調製などの業務をはじめ、病棟では患者さんへの薬の説明や薬の効果・副作用の確認、持参薬鑑別や薬物血中濃度モニタリング（TDM）による処方支援、入院支援センターでの術前中止薬の確認などの業務も行っています。感染対策チーム（ICT）や栄養サポートチーム（NST）などのチーム医療や、各病棟での多職種カンファレンスへも参加しています。

さらに、医薬品の副作用情報、安全性情報、使用上の注意、効能追加、添付文書の改訂など日々更新され



ていく医薬品情報を収集・蓄積し、患者さんや医療スタッフに情報提供の活動も行っています。

医師や看護師をはじめ他の医療スタッフと連携して、安心・安全な薬物治療を提供できるよう努めていきたいと思えます。薬に関して気になることがありましたら、気軽に薬剤師にお声がけください。

編集後記

副看護部長 **武富 真矢子**

令和7年（2025年）は、「戦後80年」や「昭和100年」といった歴史的節目にあたる年です。日本の各地域で、記念式典やイベントが開催されています。

当院は、昭和19年（1944年）7月に川棚海軍共済病院として開設、昭和20年（1945年）12月1日に国立川棚病院となり今年、80年を迎えます。これも地域のみなさまとのつながりとご支援があってこそだと感謝しています。

今年は80周年記念ということでドッジボール大会や山登りの企画、健康フェスタ★80周年★、健康公開講座など、80年という歴史に感謝しながら開催しました。たくさんご参加頂きありがとうございました。今後も地域の方々とのつながりを大切に、創立100年を目標に新たな歴史を刻んで参ります。季節は冬を迎えます。体調管理に気を付けてお過ごしください。